

基礎〈基礎〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
基礎演習Ⅰ	PC①/PC②/PC③/PC④	11201	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
森 晴美／中園 佐恵子／成木 智子／渋谷 美智	必修	1			

授業の到達目標

この授業では、大学入学以前に学んだことを復習するとともに、大学で必要なスキル等について学ぶ。この授業では、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）を養う。

授業の概要

前半では、高校以前に学んだことを復習する。基礎学力は大学での学修でも、あるいは卒業後の生活でも必要である。すでに理解していることは確認し、忘れていたことはしっかりと思い出して欲しい。後半では、大学での学修に必要なアカデミック・スキルを学ぶ。大学の授業で必要なこと、そして卒業後社会人として役立つことなどを身に付けていく。また基礎演習後半のクラスが、1年次のクラスとなるので、人間関係を築いて欲しい。

授業計画

- 1 (1)オリエンテーション(大学生としての姿勢)
(2)言語1
- 2 オリエンテーション(図書館の利用方法について)
- 3 (1)言語2
(2)オリエンテーション(本学の学生としての姿勢)
- 4 (1)言語3
(2)キャンパスライフ(クラスでの自己紹介)
- 5 (1)言語4
(2)キャンパスライフ(相談)
- 6 (1)社会1
(2)キャンパスライフ(課外活動について)
- 7 (1)社会2
(2)キャンパスライフ(課外活動について)
- 8 (1)社会3
(2)キャンパスライフ(課外活動について)
- 9 (1)社会4
(2)スタディスキル(受講)
- 10 (1)数学1
(2)スタディスキル(理解と表現1)
- 11 (1)数学2
(2)スタディスキル(理解と表現2)
- 12 (1)数学3

- (2)キャンパスライフ(今後の学修について)
- 13 (1)数学4
(2)キャンパスライフ(学生相談)
- 14 (1)確認試験1
(2)スタディスキル(理解と表現3)
- 15 (1)確認試験2
(2)スタディスキル確認演習

授業の方法

演習形式

準備学修

webで参照すること。

課題・評価方法、その他

リメディアル 50% (平常点70% 定期試験30%)
後半学習50% (平常点70% eラーニング30%)

欠席について

3分の1以上欠席した者には受験資格を認めない。

テキスト

一般常識リメディアルテキスト(育仲社)
3訂 大学 学びのことはじめ～初年次セミナーワークブック(ナカニシヤ出版)

留意事項

リメディアル学習の確認試験では、原則として80点以上をとらなければ不合格とする。欠席1回につき合格点は1点上がる。eラーニングを課題とし、実力診断テスト10クリアすることとする。

教員連絡先

ozaki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基礎〈基礎〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
基礎演習Ⅱ	ET①/ET②/ET③/ET④/ET⑤	11205	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
宮副 紀子／小野 礼子／佐伯 瑠璃子／白井 昭彦／吉野 美智子	必修	1			

授業の到達目標

この授業では、大学入学以前に学んだことを復習するとともに、大学で必要なスキル等について学ぶ。この授業では、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）を養う。

授業の概要

前半では、高校以前に学んだことを復習する。基礎学力は大学での学修でも、あるいは卒業後の生活でも必要である。すでに理解していることは確認し、忘れていたことはしっかりと思い出して欲しい。後半では、大学での学修に必要なアカデミック・スキルを学ぶ。また基礎演習後半のクラスが、1年次のクラスとなるので、しっかりと人間関係を築いて欲しい。

授業計画

- 1 (1)言語1
(2)今学期の目標を設定する。
- 2 (1)言語2
(2)共同作業:大学祭での企画立案と実施。
- 3 (1)言語3
(2)共同作業:大学祭での企画立案と実施。
- 4 (1)言語4
(2)共同作業:大学祭での企画立案と実施。
- 5 (1)社会1
(2)共同作業:大学祭での企画立案と実施。
- 6 (1)社会2
(2)レポート作成:参考文献様式の復習。
- 7 (1)社会3
(2)レポート作成:参考文献様式の復習と間接引用のやり方。
- 8 (1)社会4
(2)レポート作成:間接引用のやり方。要約とは。
- 9 (1)数学1
(2)レポート作成:要約をする。
- 10 (1)数学2
(2)レポート作成:学生同士で交換し、互いのレポート草稿の添削を行う。
- 11 (1)数学3
(2)レポート作成:学生同士で交換し、互いのレポート草稿の添削を行う。

- 12 (1)数学4
(2)Kaisei English and Tourism Festival
- 13 (1)確認試験1
(2)レポート作成:学生同士で交換し、互いのレポート草稿の添削を行う。
- 14 (1)確認試験2
(2)レポート作成:教員からの添削をもとにレポートを完成する。
- 15 (1)確認試験3
(2)教員からの添削をもとにレポートを完成し、提出する。

授業の方法

演習形式

準備学修

テキストでしっかり、予習・復習すること。eラーニングを活用すること。準備学習には60時間以上かけること。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%

欠席について

3分の1以上欠席した者には受験資格を認めない。

テキスト

一般常識リメディアルテキスト(育仲社)

留意事項

リメディアル学習の確認試験では、原則として80点以上を盗らなければ不合格とする。欠席1回につき、合格点を1点上げる。eラーニングを課題とし、指定された箇所まで進んでいなければ単位を認めない。教学カルテも評価対象とする。

教員連絡先

ozaki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基礎〈基礎〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
基礎演習Ⅱ	PC①/PC②/PC③/PC④	11205	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
森 晴美／中園 佐恵子／成木 智子／渋谷 美智	必修	1			

授業の到達目標

この授業では、大学入学以前に学んだことを復習するとともに、大学で必要なスキル等について学ぶ。この授業では、KAISEIパーソナリティのK(思いやり)とS(奉仕)を養う。

授業の概要

前半では、高校以前に学んだことを復習する。基礎学力は大学での学修でも、あるいは卒業後の生活でも必要である。すでに理解していることは確認し、忘れていたことはしっかりと思い出して欲しい。後半では、大学での学修に必要なアカデミック・スキルを学ぶ。大学の授業で必要なこと、そして卒業後社会人として役立つことなどを身に付けていく。また基礎演習後半のクラスが、1年次のクラスとなるので、しっかりと人間関係を築いて欲しい。

授業計画

- 1 (1)言語1
(2)オリエンテーション
- 2 (1)言語2
(2)キャンパスライフ(課外活動についてのディスカッション)
- 3 (1)言語3
(2)キャンパスライフ(課外活動についてのディスカッション)
- 4 (1)言語4
(2)キャンパスライフ(課外活動についてのディスカッション)
- 5 (1)社会1
(2)スタディスキル(教学カルテ入力について)
- 6 (1)社会2
(2)キャリアデザイン(社会意識1)
- 7 (1)社会3
(2)キャリアデザイン(社会意識2)
- 8 (1)社会4
(2)キャリアデザイン(社会意識3)
- 9 (1)数学1
(2)キャリアデザイン(社会意識4)
- 10 (1)数学2
(2)スタディスキル(リサーチ1)
- 11 (1)数学3
(2)スタディスキル(リサーチ2)
- 12 (1)数学4

- (2)スタディスキル(リサーチ3)
- 13 (1)確認試験1
(2)社会人への 歩(今後の学修について)
- 14 (1)確認試験2
(2)スタディスキル(リサーチ4)
- 15 (1)確認試験3
(2)アカデミックスキル確認演習

授業の方法

演習形式

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

リメディアル50% (平常点70% 定期試験30%)
後半学修50% (平常点60% eラーニング30% 教学カルテ10%)

欠席について

3分の1以上欠席した者には受験資格を認めない。

テキスト

一般常識リメディアルテキスト(育伸社)
3訂 大学 学びのことはじめ～初年次セミナーワークブック(ナカニシヤ出版)

留意事項

リメディアル学習の確認試験では、原則として80点以上を盗らなければ不合格とする。欠席1回につき、合格点を1点上げる。eラーニングを課題とし、実力診断テスト20クリアをすること。教学カルテも評価対象とする。

教員連絡先

ozaki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基礎〈基礎〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
海星学Ⅰ	ET①/ET②/ET③/ET④	11206	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
箕野 聡子／佐伯 瑠璃子／酒井 新一郎／白井 昭彦	必修	1			

授業の到達目標

神戸海星女子学院大学の建学の精神や歴史についての理解し、本学の学生としての自覚を深める。そのために、人格的素養としてのKAISEIパーソナリティの項目についての学び、並行し行われるキャリアプログラムと合わせ、各自の考えを持ち、内面的に自らを磨き自身のキャリアデザインを磨く。

授業の概要

KAISEIパーソナリティ「K・A・I・S・E・I」の6つの言葉を、グループでの討論や研究を通して身につける。具体的にはコミュニケーションを養いながら、他者と協力する力、発信する力をつけていく。それと並行して行われるキャリア教育のプログラムから社会で働くこと・社会との関係について考え、自身の将来に意識を向けていく。

授業は授業内容に合わせて、学年全体、学科別、またはクラス別に行う。

授業計画

- 1 海星学とは
- 2 KAISEIパーソナリティについて
- 3 キャリアプログラム①「社会を知る」
- 4 キャリアプログラム②「社会で働く」
- 5 キャリアプログラム③「職種・業界」
- 6 キャリアプログラム④「学科の学びとキャリア」
- 7 ポートフォリオ(学生カルテ)①とeラーニング
- 8 ポートフォリオ(学生カルテ)②とeラーニング
- 9 海星を学ぶ① [K:思いやり]
- 10 海星を学ぶ② [S:奉仕]
- 11 海星を学ぶ③ [I:国際性]
- 12 海星を学ぶ④ [A:自律]
- 13 海星を学ぶ⑤ [E:倫理]
- 14 海星を学ぶ⑥ [I:知性]
- 15 ポートフォリオ(学生カルテ)

授業の方法

講義または個人作業・協同作業、グループディスカッション、プレ

ゼンテーションなど授業によってさまざまな形で行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

- ①各教員から課題が与えられる。フィールドバックの方法は教員によって異なる。
- ②出席点30%、レポート・小テスト・発表など40% eラーニング30%

欠席について

出席を重視する。欠席が5回を超えると単位は修得できない。

テキスト

プリント使用

留意事項

eラーニングを課題とし、指定された箇所まで進んでいなければ単位を認めない。

教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp・saeki@kaiei.ac.jp・sakai@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈心理・臨床・発達〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
社会・集団・家族心理学			17399	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中園 佐恵子	選択	2	臨床心理士、公認心理師			

授業の到達目標

人は社会の中で生き、他者から影響を受ける存在である。本講義は「対人関係並びに集団における人の意識及び行動についての心の過程」、「人の態度及び行動」、「家族、集団及び文化が個人に及ぼす影響」について学ぶ。対人関係や集団、人の態度に関わる心の働き、文化や社会から人が受ける影響について学ぶ。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

主に社会心理学と家族心理学の基礎知識を身につける。集団や対人関係、人の態度に関わる心理学的な知識を学ぶ。また、文化や社会から人が受ける影響について学ぶ。最も身近な集団である家族と家族に関わる心理についても学ぶ。

授業計画

- 1 社会心理学とは
- 2 認知と感情
- 3 自己概念と自己評価
- 4 ステレオタイプ
- 5 態度と態度変化
- 6 対人関係
- 7 集団と個人1
- 8 集団と個人2
- 9 組織と個人
- 10 集団行動
- 11 心と文化1
- 12 心と文化2
- 13 家族という集団
- 14 家族の心理
- 15 まとめ

授業の方法

講義形式を中心に基礎的な知識について学ぶ。授業で学んだことを振り返る時間も設ける。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

振り返りの後、担当教員によるフィードバックを行う。
平常点30%、定期試験70%

欠席について

学内の規定に従う。

テキスト

池田謙・唐沢 穰・工藤恵理子・村本由紀子 著『社会心理学補訂版』 有斐閣

教員連絡先

nakazono@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
生活文化概論			17405	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
渋谷 美智	選択	2	公立保育所保育士			

授業の到達目標

子どもの生活は、遊びそのものであり、子どもの人格は遊びを通して形成されるものであるとも言える。日本は四季に富み、四季にまつわる様々な子どもを取り巻く記念日・行事がある。この素晴らしい日本の文化を後世に伝えていくことの重要性を理解し、子どもの生活文化の様々な側面を学ぶことを目的とする。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を考える。

授業の概要

現代社会に生きる子どもたちの生活や文化に焦点をあて、そこに生きる子どもたちの諸相を見ていく。体験的学習を織り交ぜ、学生が自らの体験を通して、子ども文化のイメージがもてるようにする。

授業計画

- 1 授業の目的 生活科を踏まえて考える生活文化概論
- 2 子ども文化の意義、定義とその構造
- 3 子どもを取り巻く生活環境の変化
- 4 子どもを取り巻く生活環境について
- 5 現代の子どもたちの遊びと生活
- 6 集団遊びの重要性
- 7 集団遊びの重要性 異年齢集団の遊びの重要性
- 8 自然とのかかわりについて(教室を出ての実際体験)
- 9 自然の中での遊びの重要性
- 10 地域、公共物とのかかわりについて
- 11 児童文化財について 伝承遊びについて
- 12 1年を通して、季節の子ども文化と遊び
- 13 季節の遊びについて(お正月)
- 14 子どもを取り巻く「ひと」「もの」「こと」
- 15 まとめ・定期試験

授業の方法

講義・演習・実践により進める。

準備学修

webで参照すること。

課題・評価方法、その他

レポートの提出を求め、講義の中でフィードバックを行う。
平常点50%、定期試験50%

欠席について

出席状況も成績評価の対象とする。

テキスト

必要書類については、随時プリントを配布する。

参考図書

子どもとあそび 仙田満著 岩波新書
児童文化 皆川美恵子、武田京子著 ななみ書房
子どもに伝えたい年中行事・記念日 萌文書林

留意事項

実践を多く取り入れるため、授業計画についてはかなり変更があるので、教務課前掲示板を確認しておくこと。

教員連絡先

shibuya@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育内容の研究・健康			17717	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
石田 伸子	選択	2	私立幼稚園教員			

授業の到達目標

教育要領には「見通しを持って行動し、自ら健康で安全な生活を作り出すようになる」のが終了時の具体的な姿として示されている。幼児期に身につけるべき、心と身体の健康に関する内容が理解できること。また、実際に体を動かすことの楽しさ・心地よさを体験し、発達に応じた幼児の運動遊びの指導法を身につける。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）を養う。

授業の概要

毎日の生活を満足感を持って楽しく充実して過ごすには健康が基本になる。健康であるということは生活上すべての活動の基本となることである。基本的な生活習慣の自立への指導から、健康な身体作り・健康管理・安全教育など、幼児自ら心身ともに健康な生活ができるようになるには何が必要か、発達の段階を踏まえて学習する。

授業計画

- 1 健康とは何か
- 2 子どもの身体の発育・発達
- 3 乳幼児期の運動
- 4 乳幼児期の安全教育と病気の予防
- 5 運動遊び(実技)①(縄、新聞紙、ボールなどを使った遊び等)
- 6 運動遊び(実技)②(大縄、フープを使った遊び、用具を使わない運動遊び等)
- 7 運動遊び(実技)③(運動用具・平均台、跳び箱、マット等を使った遊び等)
- 8 乳幼児期の生活習慣の形成
- 9 乳幼児期の遊びと運動
- 10 乳幼児期の生活と食
- 11 領域「健康」の理解と指導法
- 12 領域「健康」をめぐる現代の諸問題
- 13 指導計画作成から保育へ①
- 14 指導計画作成から保育へ②
- 15 学習した内容のまとめとテスト

授業の方法

テキストに添って講義を進めるが、事例を多くとり入れ、理解しや

すいようにする。ディスカッションや実技を取り入れ、主体的に体得していただけるようにする。

準備学修

Webで参照すること

課題・評価方法、その他

グループ発表後は、教員によるフィードバックを行う。実技の積極性、動きなどを評価する。平常点60% 定期試験40%とする。

欠席について

欠席数は成績評価に反映する

テキスト

演習 保育内容「健康」 基礎的事項の理解と指導法—川邊貴子・吉田伊津美編著 建帛社

参考図書

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

留意事項

実技①②③は、運動しやすい服装（名前がわかりやすい名札あるいはゼッケンをつけること）・体育館シューズ・新聞紙・縄跳び用縄を持参のこと。場所は未定。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育内容の研究・環境			17721	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
渋谷 美智	選択	2	公立保育所保育士			

授業の到達目標

近年の社会の変化にともなって、子どもを取り巻く様々な環境も従来とは変わり続けている。この現状をしっかりと受け止め、子どもを取り巻く環境のあり方や保育者の役割を理解する。環境が成長過程に影響することが理解でき、その時期にふさわしい環境の構成あるいは環境の取り入れ方が分かるようになる。幼児に影響を与える人的環境としての保育者が大きな存在となることを踏まえ、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）とE（倫理）の育成を目指す。

授業の概要

幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領の領域「環境」に「周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う」と述べられている。子どもたちが園内外の「自然・文化・人・もの・事象・文字・記号」などに自ら触れ、生きる力を育む直接的体験を積み重ねられる環境を準備するために、保育者自身が様々な環境に対し興味や関心をもち理解し、子どもの主体性を引き出す為にどのような環境づくりをしていけばいいのか、指導案作成と模擬保育等を通して、保育者自身も常に主体性を持って環境について学び、専門的な能力を身につけていけるようにする。

授業計画

- 1 保育と「環境」
- 2 領域「環境」とは
- 3 子どもの育ちと領域「環境」(DVD視聴「子どもを育む保育の環境」)
- 4 教室を出ての実際体験とグループワーク
- 5 子どもを取り巻く自然環境
- 6 生き物とのかかわりにおける子どもの育ち(DVD視聴「動物を知る」)
- 7 生き物とのかかわりにおける子どもの育ち
- 8 子どもを取り巻く人的環境
- 9 子どもを取り巻く物的環境
- 10 子どもの活動をひきたす保育環境(数量・図形・文字・標識に対する感覚)
- 11 子どもの活動を引き出す保育環境(教室を出て実際体験、DVD 視聴)
- 12 子どもを生きる力を育む環境
- 13 子どもを取り巻く社会的環境
- 14 子どもを取り巻く社会的環境
- 15 環境を通じた保育の内容・教材研究

- 14 子どもを守り育てる環境
気になる子どもと環境
- 15 環境を通じた教育・保育の現在の課題 まとめ

授業の方法

講義を中心にし、内容に沿ったDVD視聴や事例の中から、グループで話し合ったり意見発表を多く取り入れる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%。レポートの提出や振り替えりテストなどについて講義の中でフィードバックを行う。

欠席について

欠席数は成績評価に反映する

テキスト

「保育内容 環境 あなたならどうしますか？」岡澤陽子、杉本裕子、平野麻衣子、松山洋平、山下文、萌文書林

参考図書

保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領解説 フレーベル館
3,4,5歳児が夢中になる実践「造形遊び」 平田智久監修 ナツメ社
あそびうた大全集 永岡書店

留意事項

教室を出ての実際体験等を含むので、授業計画が変更する可能性がある為、授業課前のボードをよく注意して見ておくこと

教員連絡先

shibuya@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
乳児保育 I			17778	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
渋谷 美智	選択	2	公立保育所保育士			

授業の到達目標

乳児保育の意義・目的と歴史の変遷及び役割等について理解する。乳児期（3歳未満児）の発育・発達と保育について学び、保育所や乳児院等における乳児保育の現状と課題についても理解する。なお健やかな成長を支えるための生活と遊びなど乳児保育の理論や知識・技術の具体的な事例を通して保育の内容を理解する。また、乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）E（倫理）を考える。

授業の概要

わが国における乳児保育の歴史の変遷と保育所・乳児院・家庭の現状を資料を基に把握し、保育所や乳児院の果たす役割、乳児保育を担当する保育者としての役割を理解する。また、乳児を集団で保育することについて、保育現場での具体的な課題、いわゆる保育環境や長時間保育での乳児の生活の仕方など援助の実態を理解し、乳児の保育にあたる保育者としての専門的な能力を身につけられるようにする。

授業計画

- 1 乳児保育とは(DVD視聴「乳幼児の発達と保育 0歳児」)
- 2 乳児保育の理念と歴史の変遷
- 3 乳児の保育と思春期への育ち
- 4 愛されて育つということの意味(DVD視聴「アタッチメント関係」)
- 5 胎児の世界
- 6 乳児期の発達と保育内容(DVD視聴「乳児の成長記録」)
- 7 乳児期の発達と保育内容(DVD視聴「乳児の成長記録」)
- 8 乳児期の生活と保育
- 9 乳児期の環境と人間関係(DVD視聴「環境構成」)
- 10 乳児期の環境と人間関係(DVD視聴「人とのかかわりの中で学ぶ」)
- 11 乳児期の全体的な計画と指導計画
- 12 地域における子育て支援
保育所や保育所以外の施設における乳児保育
- 13 伸びやかさを育てる遊びと保育
乳児期の児童文化と遊び
- 14 様々な発達の考え方
乳幼児健康診査による早期発見・早期療育と保育の役割
- 15 まとめ

授業の方法

講義と演習を中心とし、内容に沿ったDVD視聴を取り入れたり、実際体験をする。

準備学修

Webで確認すること。

課題・評価方法、その他

平常点30%、定期試験70%

レポートの提出を求め、講義の中でフィードバックを行う。

欠席について

出席状況も成績評価の対象とする。

テキスト

新時代の保育双書 乳児保育第3版 (株)みらい 大橋貴美子編

参考図書

乳児保育の基本 責任編集 汐見稔幸・小西行郎・榊原洋 フレーベル館
保育の内容・方法を知る 乳児保育〔新版〕 増田まゆみ編著 北大路書房
保育所保育指針解説 フレーベル館
乳児の生活と保育 ななみ書房

留意事項

教室を出ての実際体験等を含むため、授業計画の変更もある。授業課前のボードをよく注意して見ておくこと。

教員連絡先

shibuya@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
乳児保育 II			17779	II	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
渋谷 美智	選択	1	公立保育所保育士			

授業の到達目標

乳児保育 I を踏まえて、乳児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助やかかわりについての理解を深め、養護と教育の 体性を考えた生活や遊びと、保育の方法について、実際体験を通して具体的に理解する。また、そのための指導計画のあり方を学ぶ。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）E（倫理）を考える。

授業の概要

乳児保育 I での授業を振り返りながら、乳児保育とはどういうものであるかを、実際体験や演習を通して再認識し、またその保育をする上での計画について理解を深め、乳児保育にあたる保育者として専門的な能力を身につけられるようにする。

授業計画

- 1 乳児保育の基本 発達と援助
- 2 乳児保育の基本 発達と援助(DVD視聴「乳幼児の発達と保育 0, 1, 2歳児」)
- 3 乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際
- 4 乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際
- 5 乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際
- 6 乳児保育の実際(教室を出て実際体験をする。DVD視聴)
- 7 乳児保育における計画の実際
- 8 まとめ

授業の方法

講義と演習を中心とし、内容に沿ったDVD視聴を取り入れたり、実際体験をする。

準備学修

Webで確認すること。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%

レポート提出を求め、講義中でのフィードバックを行う。

欠席について

出席状況も成績評価の対象とする。

テキスト

はじめて学ぶ 乳児保育 第2版 同文書院 志村聡子編著者

参考図書

保育所保育指針解説(フレーベル館)
新時代の保育双書 乳児保育 第3版 (株)みらい 大橋貴美子編
乳児の生活と保育(改訂版) ななみ書房 松本園子編著
あそびうた大全集 永岡書店

留意事項

教室を出ての実際体験もあるため、授業計画の変更もある。教務課前掲示板をよく注意して見ておくこと。

教員連絡先

shibuya@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育実習指導（小学校）	教職小		17785	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
大岸 啓子	選択	1	公立小学校教員			

授業の到達目標

小学校で教育実習を行う責任と心構えを認識するとともに、実習に必要な知識・技術を身に付ける。また、教育実習の成果と課題を振り返り、さらに身に付けるべき知識や技能等について理解する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）の育成を目指す。

授業の概要

教育実習に必要な基礎的・基本的な知識、教育現場の現状や実習中の心構え等について講義を進める。また、具体例や実践を通して、小学校教師の様々な仕事と職責について学ぶ。

授業計画

- 1 受講の心構え・授業内容についてのガイダンス、小学校教育実習を受ける前に
- 2 実習校との事前打合せ、小学校の組織と日程
- 3 実習中の心得（勤務、礼儀、言葉遣い、服装、持ち物）
- 4 実習中の心得（学級経営、給食指導、休み時間）
- 5 児童や教職員との接し方
- 6 実習記録の書き方
- 7 学習指導と生徒指導
- 8 算数科模擬授業（低学年）
- 9 算数科模擬授業（高学年）
- 10 教育実習の成果と課題

授業の方法

書く活動と発表を多く取り入れる。

準備学修

テキストの指定ページを予習したり、指導案を作成したりしておくこと。詳細については、Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

- ①指導案と模擬授業について、評価とアドバイスを行う。
- ②評価方法は平常点70%、定期試験30%とする。

欠席について

欠席は10点減点し、遅刻は3点減点する。

テキスト

石橋裕子・梅澤実・林幸範『小学校教育実習ガイド』萌文書林

参考図書

文部科学省『小学校学習指導要領解説』東洋館出版社

留意事項

小学校教育実習の知識や技術を修得し、教師としての心構えを学ぶ授業であることを認識して授業に臨むこと。

教員連絡先

ogishi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育実習指導 I A			17812	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
渋谷 美智	選択	1	公立保育所保育士			

授業の到達目標

保育所実習の意義・目的および実習の内容を理解し、自らの課題を明確化する。なお保育所実習を円滑に進めていくため実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解し、実習がより効果的に行えるようにする。また、子どもの人権と最善の利益、プライバシーなどの守秘義務について理解する。事後指導においては、「保育実習Ⅱ」に向けての課題や学習目標を明確にする。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）、E（倫理）を考える。

授業の概要

保育所実習の意義・目的・方法を理解し、実習内容・心構え・実習記録の意義と記録の仕方について学ぶ。なお初めての保育所実習を受けるにあたり各教科の講義で得た知識をもとに「保育所とは」を理解し、保育所の機能や保育士の役割、子どもの理解、日々の子どもの生活や遊びの援助の仕方について習得し、保育現場での実践に結びつけられるようにする。事後指導では、「保育実習Ⅰ」の総括と自己評価を行い、「保育実習Ⅱ」に向けての新たな課題や学習目標を明確にし、より「保育実習Ⅱ」が効果的に行えるようにする。

授業計画

- 1 保育所実習の意義・目的・概要について理解する
- 2 保育所の役割と機能を理解する
- 3 発達過程の理解を深める
- 4 保育の計画について再認識し、理解を深める 実習指導案の書き方を知る
- 5 保育内容の実践
- 6 実習生個人票の作成およびオリエンテーションの受け方、事務手続きについて理解する
- 7 実習記録の書き方を知る
- 8 実習に際しての心構え、留意事項(事後の実習園に対するお礼状の書き方等含む)
- 9 事後指導における実習の総括と自己評価・課題の明確化

授業の方法

講義・演習・実践により進める。

準備学修

webで参照すること。

課題・評価方法、その他

授業出席状況・諸提出物・実習記録などにより評価する。定期試験は実施しない。

欠席について

欠席は、1回につき5点減点とする。

テキスト

保育実習指導の手引き（海星版）
必要資料については随時プリントを配布する。

参考図書

あそびうた大全集 永岡書店
手あそび百科 ひかりのくに
実習の記録と指導案 ひかりのくに
3. 4. 5歳児が夢中になる実践！造形遊び ナツメ社

留意事項

実習を受けるまでに乳幼児の発達過程をしっかりと把握し、保育実践の知識や技術をできるだけ多く身につけておく（絵本の読み聞かせ・制作・手あそび・歌など）

教員連絡先

shibuya@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育実習指導 I B			17813	II	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
成木 智子	選択	1	公立保育所保育士 私立保育園保育士			

授業の到達目標

保育実習の意義・目的および実習の内容を理解し、自らの課題を明確化する。なお実習を円滑に進めていくため実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解し、実習がより効果的に行えるようにする。また、子どもの人権と最善の利益、プライバシーなどの守秘義務について理解する。事後指導においては、自己評価を行い課題や学習目標を明確にする。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）、E（倫理）を考える。

授業の概要

実習の意義・目的・方法を理解し、実習内容・心構え・実習記録の意義と記録の仕方について学ぶ。なお実習を受けるにあたり各教科の講義で得た知識をもとに「児童福祉施設とは」を理解し、機能や保育士の役割、子どもの理解、日々の子どもの生活や遊びの援助の仕方について習得し、保育現場での実践に結びつけられるようにする。事後指導では、自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にしていく。

授業計画

- 1 実習の意義・目的・概要について理解する。
- 2 各施設の役割と機能を理解する。①
- 3 各施設の役割と機能を理解する。②
- 4 施設実習の準備と心構えを理解する。①
- 5 施設実習の準備と心構えを理解する。②
- 6 実習における観察・記録・評価の仕方を理解する。
- 7 実習記録の書き方を理解する。実践及び実習に関する諸手続
- 8 実習についての心構え、留意事項などの確認(実習事後の御礼状の書き方なども含む)
- 9 事後指導における実習の総括と自己評価、課題の明確化

授業の方法

講義・演習・実践により進める。

準備学修

webで参照すること。

実習施設についての概要を事前に調べる。手あそびを数多く知るようしたり、絵本の読み聞かせの練習をしたりする。

課題・評価方法、その他

授業出席状況・諸提出物・実習記録などにより評価する。定期試験は実施しない。

欠席について

欠席は、1回につき5点減点とする。

テキスト

必要資料については随時プリントを配布する。

参考図書

あそびうた大全集 永岡書店
手あそび百科 ひかりのくに
実習の記録と指導案 ひかりのくに

留意事項

実習を受けるまでに乳幼児の発達過程をしっかり把握し、保育実践の知識や技術をできるだけ多く身につけておく。

教員連絡先

nariki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲し板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育実習指導B			17820	IV	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
渋谷 美智	選択	1	公立保育所保育士			

授業の到達目標

保育実習 I Aを通して得た自己課題をもとに、保育技術面での向上を目ざして学習し、十分とは言えないが実践能力を養い保育実習 II に取り組むことができたものとする。KAISEI パーソナリティのK（思いやり）とI（知性）、E（奉仕）を考え、A（自律）を養う。

授業の概要

保育実習 I Aで修得した知識をもとに、保育実習 II では現場での保育実践を念頭に置き、指導案や保育実践に取り組めるように、必要な知識や技術を学ぶ。

授業計画

- 1 保育実習 II の意義・目的を理解する
- 2 保育実習 II に関する事務手続き、書類等の配布と指導
- 3 保育実習に向けての遊びの指導①
- 4 保育実習に向けての遊びの指導②
- 5 保育実習に向けての遊びの指導③
- 6 実習指導案の作成 実習指導案に基づいた保育内容の確認、実践
- 7 実習記録の書き方について。個人票の書き方について
- 8 実習の心構え、留意事項(事後の実習園に対するお礼状の書き方等含む)
- 9 事後指導における実習の総括と自己評価 課題の明確化

授業の方法

講義・演習・実践により進める。

準備学修

webで参照すること。

課題・評価方法、その他

授業出席状況・諸提出物・実習記録などにより評価する。定期試験は実施しない。

欠席について

欠席1回につき5点減点。

テキスト

保育実習指導の手引き（海星版）
必要資料については随時プリントを配布する。

参考図書

手あそび百科 ひかりのくに
実習の記録と指導案 ひかりのくに
あそびうた大全集 永岡書店
3, 4, 5歳児が夢中になる実践！造形遊び ナツメ社

留意事項

実習を受けるまでに乳幼児に関する保育実践の知識や技術をできるだけ多く身につけておく（絵本の読み聞かせ・製作・手あそび・歌など）

教員連絡先

shibuya@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲し板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育実習指導Ⅱ			17821	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
渋谷 美智	選択	1	公立保育所保育士			

授業の到達目標

保育実習ⅠAを通して得た自己課題をもとに、保育技術面での向上を旨として学習し、十分とは言えないが実践能力を養い保育実習Ⅱに取りくむことができたものと考え、KAISEI パーソナリティのK（思いやり）とI（知性）、E（奉仕）を考え、A（自律）を養う。

授業の概要

保育実習ⅠAで修得した知識をもとに、保育実習Ⅱでは現場での保育実践を念頭に置き、指導案や保育実践に取りくめるように、必要な知識や技術を学ぶ。

授業計画

- 1 保育実習Ⅱの意義・目的を理解する
- 2 保育実習Ⅱに関する事務手続き、書類等の配布と指導
- 3 保育実習に向けての遊びの指導①
- 4 保育実習に向けての遊びの指導②
- 5 保育実習に向けての遊びの指導③
- 6 実習指導案の作成 実習指導案に基づいた保育内容の確認、実践
- 7 実習記録の書き方について
個人票の書き方について
- 8 実習の心構え、留意事項(事後の実習園に対するお礼状の書き方等含む)
- 9 事後指導における実習の総括と自己評価 課題の明確化

授業の方法

講義・演習・実践により進める。

準備学修

webで参照すること。

課題・評価方法、その他

授業出席状況・諸提出物・実習記録などにより評価する。定期試験は実施しない。

欠席について

欠席1回につき5点減点。

テキスト

保育実習指導の手引き（海星版）
必要資料については随時プリントを配布する。

参考図書

手あそび百科 ひかりのくに
実習の記録と指導案 ひかりのくに
あそびうた大全集 永岡書店
3. 4. 5 歳児が夢中になる実践！造形遊び ナツメ社

留意事項

実習を受けるまでに乳幼児に関する保育実践の知識や技術をできるだけ多く身につけておく（絵本の読み聞かせ・製作・手あそび・歌など）

教員連絡先

shibuya@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
神経・生理心理学			17827	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
古谷 真樹	選択	2				

授業の到達目標

中枢神経や自律神経の構造と機能について理解し、注意や記憶、感情等の生理学的反応の機序、夢などのトピックから、心と脳の関係および高次脳機能障害の概要について説明できるようになる。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

神経・生理心理学は複雑で多様な人間の心理とそれに伴う行動について、脳神経をはじめ生理指標から考察する学問である。中枢神経や自律神経の構造や機能といった基礎的な内容から医療や福祉、教育現場における応用まで幅広く学ぶ。

授業計画

- 1 神経心理学・生理心理学とは
- 2 中枢神経系(脳神経系の構造及び機能)
- 3 ニューロンと活動電位
- 4 認知・注意と高次脳機能障害
- 5 記憶と高次脳機能障害
- 6 脳画像法と高次脳機能障害
- 7 睡眠中の認知活動
- 8 自律神経系と情動
- 9 皮膚電気活動
- 10 筋電図
- 11 神経伝達物質
- 12 ホルモン
- 13 リラクゼーション法
- 14 テストバッテリー
- 15 まとめと試験
- 16

授業の方法

事前学修としてプリントに今回の内容を調べて提出してもらおう。
毎回、授業始めに復習の小テストを行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点60%（事前学修のプリントまとめ30%、小テスト30%）、定期試験40%

欠席について

1回欠席で5点減点（小テスト含む）、5回以上の欠席で不合格とする。

テキスト

適宜紹介する。

教員連絡先

furutani@kaisei.ac.jp